

モチーフは、偽造防止 画線で描かれています。



■福沢諭吉 (ふくざわゆきち)
【1835年～1901年】

文明開化の動乱期に、日本の近代化に尽力した啓蒙思想家。「天は人の上に人をつくらず」という言葉から始まる啓蒙書「学問のすゝめ」などで知られています。また、慶應義塾大学の創始者としても有名です。

資料提供：慶應義塾福澤研究センター

■樋口一葉 (ひぐちいちよう)
【1872年～1896年】

「たけくらべ」「にごりえ」などの作品を生んだ、明治時代の小説家・歌人。24歳という若さで亡くなるまでに、当時の女性の姿や気持ちを克明に表現した作品を数多く残しました。



資料提供：台東区立一葉記念館



■野口英世 (のぐちひでよ)
【1876年～1928年】

梅毒の病原である菌の培養などで世界的にも有名な細菌学者。晩年には、アフリカで発生した黄熱病の研究のために現地に渡りましたが、研究中に自身が黄熱病にかかり、殉職しました。

資料提供：財団法人野口英世記念会

偽札作りは無期又は 3年以上の懲役です。



偽札を作ったり、偽札と知りながらそれを使用した場合法律で罰せられます。

また、本物の日本銀行券の額面を書き換えたり、切ったりして変造することも、同じように法律で罰せられます。

(主な取締法規)

- ◆通貨偽造・変造罪(刑法第148条第1項)
→無期又は3年以上の懲役
- ◆偽造通貨・変造通貨の行使罪(刑法第148条第2項)
→無期又は3年以上の懲役

●不審なお札を見つけたときには、ただちにお近くの警察、または日本銀行までお知らせください。

- このパンフレットに関するお問い合わせは
日本銀行発券局総務課へどうぞ。
TEL :03-3279-1111(代)
日本銀行ホームページ(URL)
<http://www.boj.or.jp/>

日本銀行

日本銀行券の偽造防止技術

二〇〇四年十一月に発行された
お札に使われている
偽造防止技術を紹介します。

日本銀行

お札を飾る6つの 技術の1つ、超細密

■鳳凰像 (ほうおうぞう)

世界遺産にも登録された京都府宇治市の寺院「平等院」、その中でも有名な建造物「鳳凰堂」に飾られた鳳凰像(国宝)です。鳳凰堂の落成は1053年ですから、今から約千年も昔ということになります。



資料提供：平等院

■「燕子花図」(かきつばたず)

江戸中期に活躍した画家・尾形光琳の代表作の一つで、彼が45～6歳の頃の作品と言われています。地となる金屏風に、緑と青の岩絵具(鉱物を砕いて作る絵具)だけで描かれたシンプルかつ象徴的な作品で、国宝に認定されています。



資料提供：根津美術館

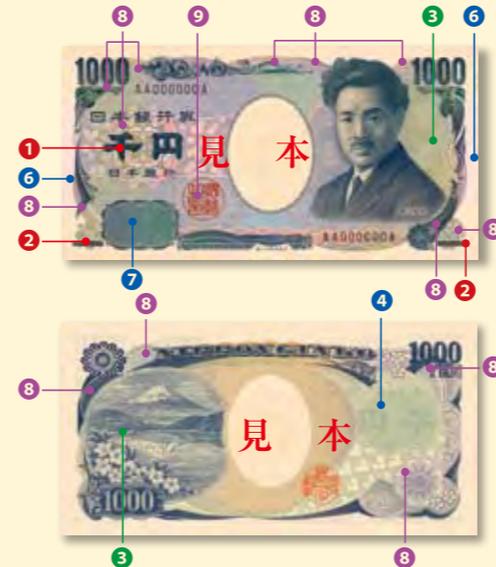
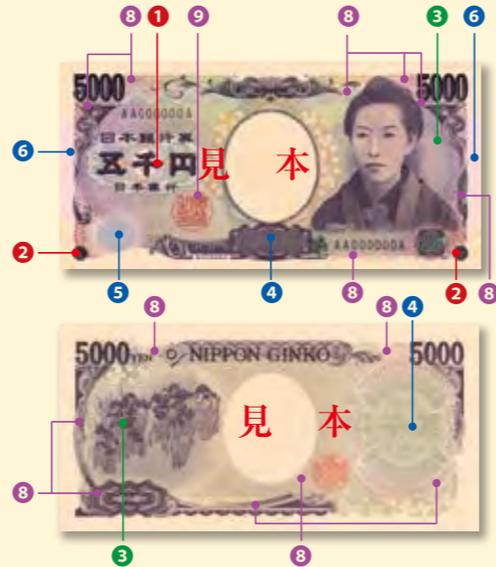
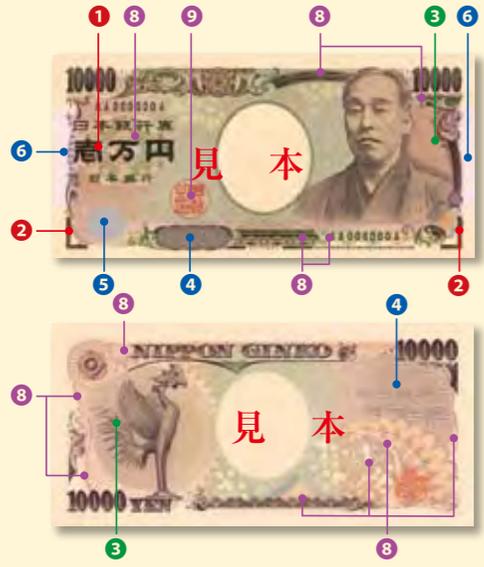
■富士山と桜

日本の誇る名峰「富士山」と、日本を象徴する花「桜」。千円券の裏面には、この二つがデザインされています。ちなみに、この富士山は本栖湖からの眺めです。



撮影：岡田紅陽
資料提供：国立印刷局

お札にはたくさんの偽造防止技術が使われています。



① 深凹版印刷

図柄は、従来のお札よりもインキが表面に盛り上がるように印刷されています。



② 識別マーク (深凹版印刷)

目の不自由な方が指で触って識別できるように、従来の「すかし」に代えて一層ざらつきのある「深凹版印刷」によるマークを導入しています。



③ すき入れバーパターン

光に透かすと、すき入れられた縦棒が見えます。従来のすかしよりも、パソコンやカラーコピー機等で再現しにくいものです。



④ 潜像模様

お札を傾けると、一万円券は表面左下に「10000」、五千円券は表面中央下に「5000」の文字が浮び上がります。また、それぞれ裏面右側には、「NIPPON」の文字が浮び上がります。



⑤ ホログラム

一万円券、五千円券に導入された技術です。お札を傾けると、画像の色や模様が変化して見えます。



⑥ パールインキ

お札を傾けると、左右の余白部にピンク色を帯びたパール光沢のある半透明な模様が浮び上がります。



⑦ 潜像パール模様

千円券独自の偽造防止技術で、お札を傾けると、(1)パール印刷による「千円」の文字と、(2)潜像模様による「1000」の数字がそれぞれ浮び上がります。



⑧ マイクロ文字

「NIPPON GINKO」および、「10000」、「5000」、「1000」と書かれた小さな文字が印刷されています。従来の文字よりも小さい文字を取り入れているほか、地紋(細かい曲線などで描かれたお札の地模様)にも大小取り混ぜた文字がデザインされています。



⑨ 特殊発光インキ

表の印章(日本銀行総裁印)に紫外線をあてるとオレンジ色に光るほか、地紋の一部が黄緑色に発光します。



ここにも注目

● 二千円券の偽造防止技術



二千円券には①～⑨(除く③、⑤、⑦)の偽造防止技術に加え「光学的変化インキ」が導入されています。これは二千円券独自の偽造防止技術で、表面右上の料額の文字「2000」が、角度を変えると青緑色から紫色に変わります。

● 光学的変化インキ



● 潜像模様(表)



● 潜像模様(裏)



● パールインキ



● すかし

「すかし」は紙の厚さを変えることによって作ります。日本のお札の「すかし」は固有の技術を用いた精巧なものです。



● 超細密画線

お札の図柄はとても細密に描かれています。このように細密な線は、カラーコピー機や通常の印刷などでは再現できません。



「もしかして偽造?」と思ったら...

さわる。



手触りがツルツルしていませんか?

真券は、インキが表面に盛り上がるように印刷されています(深凹版印刷)。

透かす。



「すかし」や「すき入れバーパターン」が見えますか?

「すき入れバーパターン」は、従来の「すかし」よりもパソコンやカラーコピー機等で再現しにくいものです。

傾ける。



「潜像模様」や「ホログラム」の模様が変わったり「パールインキ」が浮かび上がりますか?